

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2000. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 199

日本野鳥の会 埼玉県支部

カモ凶類識別のポイント

榎本秀和（鴻巣市）

◇はじめに

1999-2000年の冬は、カモメ類の当り年だったのではあるまいか。99年11月、千葉県谷津干潟にヒメクビワカモメが出現したが、この「世界の珍鳥」の飛来こそが、今思えば当り年の始まりであった。

三回通った千葉県銚子では、基本8種に加えてホイグリンカモメ、カナダカモメ、アイスランドカモメを観察。福岡県でもズグロカモメを観察するなど、ひと冬で13種類のカモメを見ることができた。しかも彩湖の探鳥会では、埼玉県内では珍しい「ただ」のカモメが出るというおまけまであった。

さて、今年も再びシーズンを迎えることとなるが、ここでカモメ類の識別について整理してみることにする。

◇カモメ類とは

チドリ目カモメ科に分類される鳥たちは、おおむねカモメの仲間 (gulls) とアジサシの仲間 (terns) とに区分され、それぞれを亜科とする考え方もある。

どちらのグループもほぼ世界中に分布するが、トロピカルなイメージのアジサシ類に対し、カモメ類は北方系という印象が強い。海という言葉からカモメを連想する人もあるが、真夏の海で見られるのは、せいぜいウミネコぐらいである。

カモメ類は大きさから大型、中型、小型に



カナダカモメ(手前)とセグロカモメ

グループ分けされる。大型カモメ類が第4回冬羽で成鳥羽に達するのに対し、中型カモメ類では第3回冬羽、小型カモメ類では第2回冬羽で成鳥羽となる。ちなみに、生まれた年の秋、幼鳥羽からの換羽後を第1回冬羽といい、翌春の換羽後を第1回夏羽という。

◇カモメ類基本8種

普通に見られるカモメ類として別表の8種を挙げることができる。日本一のカモメの名所・銚子港ともなれば、一日にして基本8種全部をマスターすることも不可能ではない。

初心者は、図鑑どおりの典型的な成鳥だけをまずよく見ることである。初めのうちは幼鳥は見ない。よくわからない若鳥もパス。

基本8種がわかってくれば、何だか様子が違う個体にも気付くことができる。もしかしたら珍しいカモメ（私はこれらを勝手にチョーチン(=超珍)カモメと呼んでいるが…)に出会えるかもしれない。例えば、

●足の黄色いセグロカモメがいたら……

キアシセグロカモメかホイグリンカモメの可能性あり。

●くちばしの黒いユリカモメがいたら……

ズグロカモメかボナバルトカモメの可能性あり。ズグロは、谷津干潟や船橋海浜公園でも見ることができる。初列風切の独特のストライプが特徴である。また、頭の黒くなり始める時季がユリカモメより早い。



アイスランドカモメ(第3回冬羽)

別表 カモメ類基本8種成鳥冬羽の識別ポイント

種名	背の色	初列風切の先端	くちばしの色	足の色	その他	
大型	シロカモメ	淡灰	白	黄色 (下側先端近くに赤斑)	淡紅	
	ワシカモメ	青灰	青灰	同上	淡紅	
	オオセグロカモメ	濃灰	黒	同上	淡紅	
	セグロカモメ	青灰	黒	同上	淡紅	
中型	ウミネコ	濃灰	黒	黄色 (上下先端に赤黒斑)	黄色	尾に黒帯
	カモメ	青灰	黒	黄色 (無斑)	黄色	
小型	ユリカモメ	淡灰	黒	赤 (無斑)	赤	頭に黒斑
	ミツユビカモメ	青灰	黒 (三角形)	黄色 (無斑)	黒	頭に黒斑

ボナバルトは、ナポレオンとは関係ない。ハシグロユリカモメという別名を知っていれば、どんな鳥か見当はつくはず。

●足の赤いミツユビカモメがいたら……

アカアシミツユビカモメの可能性あり。以前、銚子港探鳥会で足の赤いミツユビカモメが出たことがある。アカアシ！、と大喜びしたのであるが、飛び去る背面にくっきりとM字のパターン。明らかに普通のミツユビの若鳥だった。足に赤味のあるミツユビもいるので要注意。

◇カナダカモメ

真冬の銚子港。防波堤上にズラ〜と並んだカモメ、カモメ…。たじろぐほどの数を前にまず深呼吸。心を落ち着かせてからスコープに目をやると、不思議とカモメの違いがはっきり見えてくる。運がよければ、周囲のセグロに比べて背の色が淡く、やや小さめのカモメを視野に捕えることができるだろう。くちばしは比較的細く、頭全体のぼんやりした褐色斑も違う。足も短い。よく見ると初列風切の白黒のパターンも変わっているし、黒といっても灰色がかっている。風切の下側が確認できれば、それがカナダカモメである。

◇ゆるる大型カモメ類

近頃は、足の黄色いセグロカモメをキアシセグロカモメやホイグリンカモメと称するが、これらはどんなカモメなのであろうか。10年前だったら、足が黄色だったらニシセグロカモメで済んでしまっていたかもしれない。

『A Field Guide to the Waterbirds of Asia』(日本野鳥の会刊)には、セグロカモメ(*Herring Gull Larus argentatus*)の亜種として*L. a. mongolicus*と*L. a. heuglini*が掲載されている。この前者がキアシセグロであり、後者がホイグリンなのである。つまり亜種から昇格して、最近では別種とされるようになったというわけなのだが、分類としてはまだゆれているものと思われる。大型カモメ類の分類については今後の動向を注目してゆく必要があるだろう。最近のカモメ類の識別に関しては『Birder』99年11月号を参照されたい。

なお同誌は、ホイグリンの識別点として換羽の完了が遅い点を挙げている。このことは、言い換えると、初列風切の伸び切るのが遅いため、たたんだ翼端の白黒模様もイレギュラーな状態を見せているということである。初列風切のパターンが変で、足が黄色いセグロがいたら、ホイグリンカモメと考えてよさそうである。私が見た個体もそうであった。

そのほか、大型カモメ類の識別では頭の形や大きさ、くちばし下側の赤斑の形や色、虹彩の色のチェックも重要である。

◇おわりに

カモメの大家・氏原巨雄、道昭父子による『カモメ識別ハンドブック』が近々刊行されるとか…。私にとって、この秋いちばんの楽しみな出版になりそうである。

それではまた、探鳥会でお会いしましょう。

(写真：島田恵司)

住宅地（浦和市）の鳥18年

小荷田行男（浦和市）

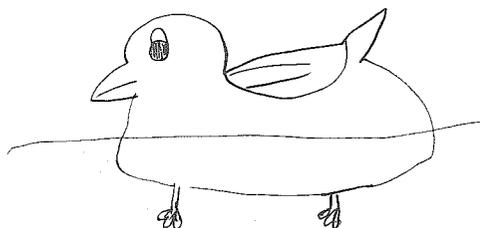
浦和駅から歩いて10分の主として一、二階建ての住宅地で観察された鳥について、1983年春から1999/2000年冬までの記録をまとめました（表1）。そばには樹高10m位の照葉樹を主とした林に囲まれた神社と小学校が在り、1930年代からの住宅地です。

この18年の周辺環境の変化は、

- ・大きな敷地の家が減った。
- ・駐車場が住宅地の中にモザイクのように出現した。
- ・生垣が減った。
- ・庭のある家が減った。
- ・マンションがところどころにできた。

など、結果として緑が減少しました。

平凡な住宅地ですが18年に亘って観察された鳥は29種にもなります。普通に観察できる鳥は、留鳥としてスズメ、シジュウカラ、ヒヨドリ、キジバト、ムクドリ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、ハシボソガラスの8種、季節的な鳥としてウグイス、ジョウビタキ、ツ



なやみづき 6さい

表2 夏鳥と冬鳥の種数

年	夏鳥	冬鳥
1983	—	—
1984	—	—
1985	9	8
1986	10	8
1987	10	7
1988	11	10
1989	8	7
1990	—	—
1995	—	11
1996	9	7
1997	8	8
1998	10	6
1999	8	11
2000	—	—

グミ、メジロの4種、最近当地では季節的な鳥に変身したオナガなどでしょう。なお「参考データ」は調査を目的としないで取ったデータです。

夏鳥と冬鳥の記録のある1980年代後半と1990年代後半を比較する（表2）と、夏鳥は9.6種から8.8種と減っていますが、冬鳥は8.0種から8.6種と増えています。環境変化を微妙に反映する夏の繁殖期の種数の減少は、緑の減少を表わしているのでしょうか。

はみだし行事案内

栃木県奥日光探鳥会（要予約）

期日：11月9日（木）

集合：9日午前7時、JR大宮駅西口代々木ゼミナール前。

交通：往復とも貸切バスを利用。

帰着：当日午後5時頃を予定。

費用：4,000円の予定（バス代、高速料、保険料等）万一過不足の場合は当日精算。

定員：20名（先着順、県支部会員優先）

申し込み：普通葉書に住所、氏名、年齢、

電話番号を明記して、櫻庭 勇

担当：櫻庭、中島（康）、中村（榮）

見どころ：紅葉の時期も過ぎて、冷たい風に落ち葉の舞う奥日光は早くも初冬の景色。光徳牧場から赤沼までの約7kmをゆっくり歩きます。高山から移動中のルリビタキやウソ、渡り途中のツグミの群などに期待します。お弁当、それに防寒具、雨具等のご用意もお忘れなく。

表1 住宅地の鳥リスト (浦和市)

観察年	季節	スズメ	シジュウカラ	ヒヨドリ	キジバト	ウグイス	ムクドリ	オナガ	ジョウビタキ	ホオジロ	ハシブトガラス	ハシブトガラス	ドバト	アオジ	コジュケイ	ツバメ	カワラヒワ	モズ	ツグミ	メジロ	アカハラ	アオバズク	イワツバメ	ハクセキレイ	ビンズイ	コゲラ	アマツバメ	カマコウ	ヤマガラ	カワウ	種数	備考
1983	春	○	○	○	○	○	○				○																		8	参考データ		
1984	春				○	○			○																				(3)			
1984/1985	冬								○																				(1)			
1985	春	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○															12	参考データ		
	夏	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○		○	○												9			
	秋	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○												8			
1985/1986	冬	○	○	○	○		○												○	○	○								8			
1986	春	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○																10	参考データ		
	夏	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○					○							10			
	秋	○	○	○	○	○	○	○	○										○										8			
1986/1987	冬	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○																8	参考データ		
1987	春	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○						○						14			
	夏	○	○	○	○	○	○	○								○	○	○						○					10			
	秋	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○					○											6	参考データ		
1987/1988	冬	○	○	○	○	○	○	○											○	○	○								7			
1988	春	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○											○	○	○			9			
	夏	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○										○						11	参考データ		
	秋	○	○	○	○	○	○	○	○											○									(3)			
1988/1989	冬	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○							○									10			
1989	春	○	○	○	○	○	○	○								○	○	○									○		8	参考データ		
	夏	○	○	○	○	○	○	○																					8			
	秋	○	○	○	○	○	○	○	○											○									(3)			
1989/1990	冬	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○												○				7	参考データ		
1990	春	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○				○	○											6			
1990/1991	冬															○	○												(1)			
1991	春				○																								(1)	参考データ		
1992	春																										○		(1)			
1993	夏		○																										(1)			
1993/1994	冬																												(1)	参考データ		
1994	春	○	○	○	○										○												○		7			
	秋																												(1)			
1995	夏																										○		(1)	参考データ		
	秋																												(1)			
1995/1996	冬	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○																11			
1996	夏	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○																9	参考データ		
1996/1997	冬	○	○	○	○	○	○	○	○																				7			
1997	夏	○	○	○	○	○	○	○								○													8			
1997/1998	冬	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○				○							○				○	8	参考データ		
1998	夏	○	○	○	○	○	○	○					○												○		○	○	10			
1998/1999	冬	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○																6			
1999	夏	○	○	○	○	○	○	○							○														8	参考データ		
1999/2000	冬	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○															○	11			

1999年11月、新潟県探鳥会日記
永野安彦・京子（北本市）

11月11日（木）晴

とても11月とは思えない暖かい朝、定刻7時過ぎ、ワイワイガヤガヤ和やかな雰囲気で大宮駅西口を出発、一路新潟へ。

越後川口SAで、「ここではオジロワシが出ることがあります」の声に、一同トイレもそこそこに双眼鏡を覗いたが、ペケ。

山本山山頂は360度展望が開け、越後三山や信濃川など晩秋の越後平野は、ススキの穂が風に光っていた。調整池でマガモ、ハジロカイツブリなどを見て、米山SAで昼食後、朝日池へ。

いるわいるわマガン、ヒシクイ、コハクチョウ、カンムリカイツブリ、ミミカイツブリなど。夕暮までたっぷり堪能して長岡のホテルへ。観察種42種。

11月12日（金）雨時々曇り

8時バス乗車、福島潟へ。ここは日本一のヒシクイの越冬地。刈り取られた田に点々とヒシクイが、そしてハクチョウがゆっくりと羽を休め、静かに時を刻んでいる。

小雨の中探鳥開始。いきなり前方にマガンの群れ。と中島リーダー「中にハクガンが1羽いる！」。皆必死に双眼鏡で追う。

続いて前方の木にオオタカが。少し進むと又別の木にもオオタカ。こちらの方が近い。スコープで見る精悍な顔、奇麗な胸の横縞。こんなに近くでこんなにゆっくりオオタカを見るなんて初めて。

観察台では目の前にハイイロチュウヒ。腰の白が奇麗だ。奥の灌木にはケアシノスリ。ノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウなども。もう頭の中がパニック。

昼食後瓢湖へ。街中の池といった感じの所に、夥しい数のカモ類。湖畔の道にもあふれていて、ありがた味が薄れる。

海岸の砂浜にずらりと並んだ海の家の一軒が今晚の宿。昨日の宿とは天国と〇〇。夜遅く迄懇親の輪を広めた。観察種39種。

11月13日（土）晴

朝食前の自由行動。宿の前で双眼鏡を覗いていると、頭上をハヤブサが山に向かって一直線。

宿のオバチャンの「また来てやー」の声に送られて、ラムサール条約登録湿地佐潟へ。

ハクチョウが出迎えてくれた。頭上で数羽のハクチョウが、バタバタ羽音をたててでっかい。鼻筋に白いセラミックを貼りつけたようなオオバン。衝撃を和らげる為に、固くないそうだ。湿地を一周。オシドリ、ミコアイサ、カワアイサなど。

最後の探鳥地、鳥屋野潟は、整備された公園からウミネコやカンムリカイツブリなどを観察。この日の観察種47種。

全行程930キロに及ぶ探鳥会も、気分のいいお仲間です。本当に楽しく無事終了。実りのある3日間で、通算68種。

戸隠飯綱高原にいったよ
島田沙織里（小6・鴻巣市）

私は、4年ぶりに春の戸隠の探鳥会に参加しました。ミズバショウ、コオホネが咲く森林植物園の木道、コマドリ、オオルリ、クロジ、ゴジュウカラたちのさえずりが、シャワーのようにふりそそぎ、感動しました。

私は、オオアカゲラを初めて見て、とってもラッキーな気分でした。

残雪の戸隠山をバックに、記念写真を撮りました。

おいしい料理と新鮮な空気、お世話になった大人の人たちに感謝したいと思います。

最近の理事会の動きについて

評議員 海老原美夫

10月9日（月）発売のYomiuri Weekly（週刊読売）10月22日号で、「日本野鳥の会の迷走」との見出しで、「A常務理事が常務会で事実上反する、又は誤解に基づく発言をし、B専務理事が辞表を提出、9月30日の臨時理事会で両者とも退任、顧問に就任して一応の終止符がうたれたが、執行部のあり方などに課題が残されている」という趣旨の記事が掲載されました。

私は発端からそれらの動きを憂慮の内に見守ってきました。会の運営に意見を述べ、理事を選出する立場の評議員の一人として、責任を感じています。大変残念な出来事でしたが、これを機に、より良い野鳥の会への一歩を目指し、努力を続けます。

もうしばらく、静かなご支持を頂ければありがたいのです。



大宮市大谷 ◇8月18日午後5時30分頃、環境広場でタマシギ1羽。草むらの中から脚を垂らして低空を飛び、再び草むらに（鈴木紀雄）。

大宮市飯田新田 ◇8月20日、びん沼川岸でアカガシラサギ1羽。27日にも確認（杉原みつ江）。◇9月15日、シギ・チドリ類一斉調査終了後、参加者10数名が同地に移動してアカガシラサギを確認。◇9月24日午後1時10分、アカガシラサギの飛ぶ姿を見たが、まるでシラサギ（山部直喜）。



アカガシラサギ 9月15日 同地で撮影
(海老原美夫)

岩槻市鹿室 ◇8月19日午前8時30分頃、県道岩槻白岡線を走行中、上空でサシバ3羽が舞っているのを発見。車を止めて観察。近くの森に降りた個体も（鈴木紀雄）。

岩槻市加倉 ◇8月29日午後7時30分頃、浄国寺の林からアオバズクの鳴き声。5月2日午後11時30分頃にも聞いたので、週に1回行ったが、確認できなかった。繁殖か、渡りの途中の立ち寄りか（鈴木紀雄）。

春日部市八丁目 ◇8月21日午後3時30分、休耕田でキアシシギ7羽（鈴木紀雄）。

戸田市彩湖 ◇9月2日、ハヤブサ1羽。9月7日、ツツドリ1羽。9月18日、アマツバメ3羽、ショウドウツバメ3羽。9月23日、ヨシガモ1羽、クサシギ1羽。9月29日、アリスイ1羽、ノビタキ1羽（高橋達也）。

戸田市荒川 ◇戸田橋付近で、9月21日、ショウドウツバメ1羽。9月22日、アマサギ1羽、コアオアシシギ2羽、タシギ1羽。9月23日、ツルシギ1羽、クサシギ5羽（高橋達也）。

戸田市戸田公園 ◇9月28日、キビタキ♀1羽（高橋達也）。

浦和市白幡沼 ◇9月18日、コガモ3羽、今期カモ類の初認（海老原美夫）。

浦和市岸町 ◇9月20日午後9時頃、調神社本殿辺りでアオバズクの声（江波功）。

坂戸市入西調整池 ◇8月26日、ヨシゴイ1羽、ゴイサギ、チュウサギ、コサギ、ダイサギ、アオサギ。夕方にはツバメ100羽程が集まってくる（後藤康夫）。

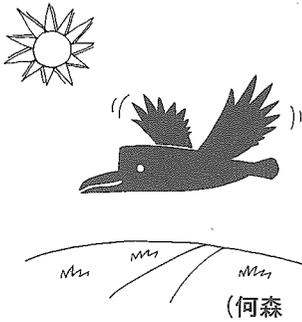
川越市南古谷 ◇8月30日午後2時頃、川越線北側でムナグロ約200羽、タカブシギ10羽、マガモ♂2羽♀1羽。南側でエリマキシギ♂1羽、タマシギ幼鳥3羽♂1羽、オオジシギ3羽。タシギと思われるジシギ類が10羽上空通過。8月31日午後1時頃、川越線北側でムナグロ約200羽、タカブシギ10羽、マガモ♂1羽♀3羽、エリマキシギ♀1羽、タシギ5羽、トウネン3羽、シマアジ♂エクリプス1羽（鈴木紀雄）。◇9月21日、オオタカ2羽がじゃれあいながら北の方角へ。9月29日、イソシギ1羽（山本義和）。

三芳町竹間沢 ◇9月13日、浦和所沢バイパス沿いでゴイサギ幼鳥3羽（山本義和）。

表紙の写真

オグロシギ（チドリ目シギ科オグロシギ属） 9月29日、谷津干潟を覗いた際、オグロシギが珍しくも淡水池の方にやってきて、センターのガラス越しに至近距離で撮影できました。シギ・チドリ類はその時期もう南下し始めてしまったのか、数が少なくなっていました。撮影：松村禎夫（大宮市） アイスランド・西ヨーロッパ・シベリア東部に分布する3亜種に分かれる。冬はアフリカ・インド・オーストラリアなどに渡る。日本には、シベリア東部で繁殖する亜種が旅鳥として立ち寄る。（三省堂・コンサイス鳥名事典から）

行事あんない



上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月5日(日)

集合：午前7時30分、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口5番バス乗り場より、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:07発にて「前原」下車、徒歩約10分。

担当：高(文)、大坂、阿久沢、永野(安)、永野(京)、高(剋)、宇原、山野

見どころ：ピリリと冷えた朝の空気の中での早朝探鳥会です。今年もあの赤い小鳥に会いたいなあ。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車。

担当：和田、森本、中里、石井(博)、倉崎、松本、高橋、後藤

見どころ：バードウォッチャーにとってはうれしい季節の到来です。長旅でくたびれた格好の冬鳥たちも、日がたつに連れてきれいになっていきます。ツグミ、カシラダカ、シメなどが大群で見られるのもこの時期です。

「しらこぼと」袋づめの会

とき：11月18日(土)午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

終わったら「パソコンで楽しむ名刺づ

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

くり」の講習会です。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月19日(日)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅東口

担当：高草木、佐久間、石井(幸)、志村、神場、中村(治)、中村(祐)、荒木、中村(隆)、下川

見どころ：晩秋の上空には何、川面には何ガモかな。田んぼではやはり今年も見事な冠羽のタゲリを期待します。タシギ、ジョウビタキ、昨年初出現のベニマシコも探しましょう。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：11月19日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、笠原、若林、兼元、森(力)、清水、小菅

見どころ：冬鳥がやってくる。カモたちもエクリプスから♂♀がはっきりしてきれいな姿を見せてくれる。鳥だけでなく首都圏に残る貴重な自然の宝庫でもある見沼たんぼの楽しさも味わってください。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月23日（木・祝）

集合：午前8時30分、東武伊勢崎線春日部駅西口、朝日バス1番乗り場前。集合後、春日部エミナース行きバス8：45発にて、「高野台（こうやだい）」下車、または午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

担当：吉安、中村（榮）、橋口、篠原、入山、松永、宮下、新井（良）、吉岡（明）

見どころ：晩秋を迎えた静かな内牧公園は、これから探鳥のシーズン。落ち葉を踏みながらジョウビタキ、ツグミ、シメなどとの出会いを楽しみに、ゆっくりと歩きましょう。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日（木・祝）

集合：午前8時50分、JR高崎線本庄駅北口。集合後、十王バス9：10発、新伊勢崎行きにて「坂東大橋南詰」下車。現地集合可。駐車は土手側のみお願いします。

担当：北川、倉崎、林（滋）、堀

見どころ：渡ってきたカモたちをあたたく迎えたいと思います。河原をゆっくりと歩きながら冬鳥との再会が楽しみです。赤城おろしの空の風は冷たいので、防寒対策はお忘れなく。現地にはトイレがありませんのでご注意ください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月26日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8：42発、所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）

見どころ：冬に向かう11月から3月の入間川は、最も鳥の多い季節。運がよければ40種以上の鳥たちに会うことができます。入間の河原から稲荷山公園へと出

会いを楽しみながら歩きましょう。

大宮市・染谷見沼自然公園探鳥会

期日：11月26日（日）

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場（浦和さぎ山公園南西隣）。

担当：工藤、兼元、森（力）、吉岡（洋）、日根、山口、松村、百瀬

見どころ：見沼自然公園の池で、ホシハジロ♀・ハシビロガモ♀各1羽が越夏しました。久しぶりの仲間たちの再会で、日本の夏は死ぬ程暑かった……と話をしているのではないのでしょうか。カモたちや斜面林の冬鳥たちが待っています。

野田市・清水公園探鳥会

期日：11月26日（日）

集合：午前9時30分、清水公園仁王門前。

交通：東武野田線大宮8：19発、春日部8：48発柏行きにて清水公園駅下車。徒歩約10分。

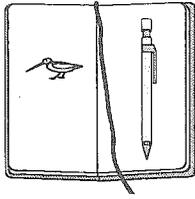
担当：中村（榮）、新井（良）、吉岡（明）、田邊、本田、大塚、小菅

見どころ：紅葉できれいに彩られた公園と湿地や遊水地の周辺を歩きます。冬鳥も出揃い、皆さんのお出かけをお待ちしていますよ。

行事案内は4ページにもあります。



ツグミ（外園たけの）



行事報告

6月18日(日) 浦和市 三室地区

参加: 88人 天気: 晴

カワウ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ
キジ バン コチドリ キジバト カッコウ コ
ゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ
モズ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ
ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナ
ガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 大
宮のボーイスカウトの子供たち、木崎中のPTA
関係の人たちとにぎやかであった。歩き出して
すぐに立ち止まってしまった。すぐ前の電線にカ
ッコウが止まって鳴いていたのだ。近くなので全
員がじっくり見られた。オオヨシキリの声、喉の
色に参加者の感嘆の声。たんぼでは稲が大きくなり、
畦にカルガモが休んでいた。カルガモの親子連れ
にあったのは代用水の流れの中で、久しぶりのこ
とであった。また、森の中で休んでいると見沼の
風とウグイスの声が涼しかった。暑い梅雨の合間
の探鳥会だったが、大きな収穫があった。

(楠見邦博)

6月24日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 18人

荒木恒夫、伊藤泰一郎、海老原教子、大坂幸男、
尾崎甲四郎、倉林宗太郎、篠原東彦、島田恵司、
志村佐治、納谷美月、原島浩、福井昭子、藤掛保
司、藤野富代、増尾隆、松村禎夫、室和子、山野
豊

7月1日(土) 上尾市 八枝神社

参加: 46人 天気: 晴後雨

アオバズク カルガモ キジバト カッコウ ツ
バメ ハシブトガラス (6種) アオバズクの雛が
成長したためか、1週間前には1羽しか見えな
かった親鳥が当日は2羽。いつもの大ケヤキの
高い枝に止まり、我々を見て見ぬ振り。7時5分
になると、1羽が枝から枝へ餌取りのウォー
ミングアップを始め、あたりが暗くなりシ
ルエットになっ

た頃、餌取りに飛び立った。

(高 文子)

7月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ ハチクマ オオタカ チョウゲン
ボウ コジュケイ キジ キジバト ヒバリ ツ
バメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキ
レイ ヒヨドリ ウグイス シジュウカラ ホオジ
ロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス (26種) 夏には珍しく爽
快な風が吹き抜ける。チョウゲンボウが舞い、
台風3号の贈り物ハチクマが出現。ノカンゾウ、
ヤブカンゾウが咲く土手、秩父連山を眺望し
つつ明戸堰まで。途中、コムスジ、ジャコウ
アゲハなどの蝶は観察されたけれど、鳥影は
うすい。最後にナイヤガラの滝の轟音を耳に、
自然のエネルギーを感じる。

(島田恵司)

7月16日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 45人 天気: 晴

カワウ カルガモ コジュケイ キジバト コゲ
ラ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨド
リ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (17種) 公園に入っただけでオオム
ラサキが見られた。その間にトイレに入っ
たらオオムラサキが居るではないか。これで
一安心。梅雨明けのせいかな、とにかく暑
いので、コースを変更して風通しのよいと
ころを歩く。鳥は、夏ということと、林が
荒れているせいかな、数が少なかった。

(佐久間博文)

7月16日(日) 浦和市 三室地区

参加: 48人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カ
ルガモ コジュケイ バン コチドリ コアジ
サシ キジバト ヒバリ ツバメ イワツバメ
ハクセ

キレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 梅雨の合間、とても暑い探鳥会だった。博物館の企画の便りが学校に配布されたためか、家族連れの参加者が多かった。暑さと子供たちのことを考えて、時間とコースを短縮した。そして、芝川で一つのレンズにアオサギやダイサギ、カワウが入り参加者を喜ばせた。コアジサシが4羽初出現。16年で出現鳥は110種となった。帰り道は代用水の桜並木の下葉影を歩いたが、見沼の風が涼しかった。(楠見邦博)

7月23日(日) 狭山市 入間川

参加: 25人 天気: 晴

カイツブリ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ トビ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 河原では全員が入れる日陰はごくわずか。日陰から日陰へ移動しながら鳥探し。サギの仲間が4種。特に夏期限定のササゴイがよく見られた。(長谷部謙二)

7月29日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 22人

荒木恒夫、伊藤泰一郎、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、小池由美子、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、島田貴子、志村佐治、高草木泰行、中村治、納谷美月、原島浩、福井昭子、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、百瀬修、山野豊

8月13日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。

8月20日(日) 浦和市 三室地区

参加: 48人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ バン キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクド

リ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 夏休み。ジリジリするような暑さの中に子供たちの歓声が聞こえた楽しい探鳥会だった。暑さで隠れていた鳥たちが、子供たちの歓声に引かれて出てくるのだ。見沼たんぼの夏は暑いながらも鳥を楽しむ人々のものであった。(楠見邦博)

8月26日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 21人

荒木恒夫、伊藤泰一郎、江浪功、大坂幸男、尾崎甲四郎、小池由美子、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、島田貴子、志村佐治、鈴木紀雄、納谷美月、橋口長和、原島浩、福井昭子、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松村禎夫、百瀬修

8月27日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 48人 天気: 晴

カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ ハヤブサ チョウゲンボウ コジュケイ バン ハジロコチドリ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン キョウジョシギ トウネン サルハマシギ アオアシシギ キアシシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ セイタカシギ ユリカモメ ウミネコ キジバト カワセミ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ セッカ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス (42種) ダイゼンとムナグロ、オグロシギとオオソリハシシギ、ダイシャクシギとホウロクシギ、チュウサギとダイサギなどが並んで出てくれたので、識別の練習になった。これも谷津干潟ならではの光景!(杉本秀樹)

9月3日(日) リーダー研修会

参加: 57人

本部ネイチャースクールから丹羽康勝氏が参加。新規受講者8人と郡山支部からの4人に、役員・リーダーを合わせて総勢57人が集い、今回も充実した研修会となる。これだけの人数が一堂に会して、共に学び、意見を交換できる場は他にはない。支部の事業、普及部の活動を推進していくためには、こういう場が絶対に必要である。終了後の懇親会にも28人の参加があり、おおいに懇親を深めることができた。(榎本秀和)

連 絡 帳

●三宅島在住会員に配慮

三宅島は全島避難となり、アカコッコ館のレンジャーも東京で仮住まい、仕事は本部事務局内で続けています。

三宅島には12名の野鳥の会会員がおり、内1名が埼玉県支部の会員です。東京支部、本部が会費1年間免除を決めたのに続き、埼玉県支部も同じ配慮することに決めました。

●会誌同封発送はいかがですか

今のところ特にご意見は寄せられていませんが、何かありましたら、遠慮なくどうぞ。

9月21日付けて、本部と支部との間で、会誌同封発送に関する覚書も取交わしました。

事前のお知らせが不十分だった点が一つ。東京支部と埼玉県支部の両方に所属している約120名の方の場合、『野鳥』誌に同封するのは東京支部の支部報だけです。『しらこぼと』は今まで通り単独で送られます。

3通同封すると事務手続などが複雑になり過ぎるからです。

●会員センターの統計から-2

『会員センター通信No.7』には、昨年度末の年齢統計（家族会員を除く）が発表されています。

		全体	男性	女性
平均年齢		51歳	52歳	51歳
構成比	39歳以下	17.7%	15.9%	22.4%
	40~70歳	72.2%	73.7%	68.5%
	71歳以上	10.0%	10.3%	9.0%

人数で言うと男性が女性の2.5倍。要するに、40~70歳の男性が最も多いということ、平均年齢は年々上昇傾向にあるそうです。

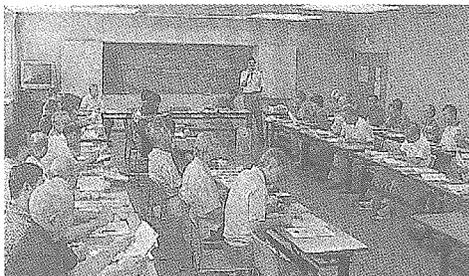
●普及活動いろいろ

(財)森林文化協会主催の群馬県玉原朝日の森探鳥会が1999年10月と2000年5月の2回開催され、中島康夫支部長・松井昭吾顧問ら合計7名が講師をつとめました。

蓮田市中央公民館バードウォッチング教室が1999年11月から2000年3月まで5回開催さ

れ、中島康夫支部長ら合計5名が講師をつとめました。

2000年9月16日、坂戸市立坂戸中学校校文化祭で開催されたバードウォッチング体験学習では、増尾隆リーダーら合計4名が指導に当たりました。



9月9日 リーダー研修会

●11月の事務局 土曜と日曜の予定

4日(土) 編集会議、研究部会議。

11日(土) 校正作業。

18日(土) 袋づめの会。

19日(日) 役員会議。

●会員数は

10月2日現在2,923人です。

活 動 報 告

9月16日(土) 10月号校正(海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司)。

9月17日(日) 役員会議(司会:橋口長和、探鳥会講師派遣依頼・その他)。

9月25日(月) 10月号発送(倉林宗太郎)。

編 集 後 記

事務局のささやかなIT化に伴って、編集部も少し変身。先月、投稿を電子メールで受け付けられるようになったことをお知らせしました。今月は、さらに野鳥情報専用のアドレスを用意しました。お気軽に情報をお寄せください。(森本)

投稿用: yamabezuku@hotmail.com

野鳥情報用: toridayori@hotmail.com

『しらこぼと』2000年11月号(第199号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
 インターネットホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事はすべて上記ホームページに転載されます。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用